

読んだ本 (飯田朝子・文 寄藤文平・絵 福音館書店)

「みんなのでつくる1本の辞書」

川崎市立片平小学校五年

碓井璃衣子うすいりいこ

ゆるキャラっぽいイラストが散りばめられた表紙のこの本。初めて手にした時は、題名の1本という意味が分かりませんでした。ペーじをめくると、そのキャラクター、イラスト君が想像以上にあちこちに、そして数え方の一つである「○本」をテーマとして、さし絵が豊富で楽しく、一気に読んでしまいました。

日本語のものの数え方Ⅱ助数詞は、日常で何気なく使っているものです。私がすぐに思いついた本と数えるものは、えん筆、チョーク、傘、ペットボトル、バナナ、お団子。読み進めていくと、細長いものばかりではなく、机や宝くじ、武道の勝負など改めて本と数えているものの多さにおどろきました。何

とその数は、三百五十個以上とのこと!!
本の中で私が一番おもしろいなと感じたことは、柔道などの技が決まった時に使う「一本」の意味です。心技体、つまり精神力、技術、身体能力の全てがそろうことを一本化ととらえてこの数え方をしているのです。現在、ワールドカップでたくさんの選手のかっこいい「一本」も一本化された上で生まれたのだと思うと、ますます観戦がワクワクします。この本に紹介されていない本と数えるものを私はまだ見つけられていません。数え方を日々の生活で意識して、発掘したいです。